

平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月14日

上場会社名 株式会社 ソフトフロントホールディングス
 コード番号 2321 URL <http://www.softfront.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務担当
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 佐藤 健太郎

(氏名) 平野井 順一

TEL 03-6550-9270

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	1,088	0.4	△662	—	△606	—	△843	—
29年3月期第3四半期	1,084	284.2	△242	—	△237	—	△275	—

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 △844百万円 (—%) 29年3月期第3四半期 △274百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	△37.86	—
29年3月期第3四半期	△13.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	1,016	664	64.4	29.47
29年3月期	4,266	1,294	30.0	57.37

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 654百万円 29年3月期 1,278百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

当社は現在、中期経営計画に基づき、M&Aを積極的に進めているため、当社の業績はM&Aの成否及び実施時期によって大きく変動いたします。このため、現時点では業績に与える未確定な要素が多いため、業績予想を数値で示すことが困難な状況です。連結業績予想については、合理的に予測可能となった時点で公表いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)：有
新規 — 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) 株式会社筆まめ

(注)詳細は、添付資料P7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	22,284,520 株	29年3月期	22,284,520 株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	97 株	29年3月期	97 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	22,284,423 株	29年3月期3Q	21,054,396 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関わる記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、本資料に全面的に依存した投資等の判断は差し控えます。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 3
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 4
四半期連結損益計算書	P. 4
第3四半期連結累計期間	P. 4
四半期連結包括利益計算書	P. 5
第3四半期連結累計期間	P. 5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 6
(継続企業の前提に関する注記)	P. 6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 6
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	P. 7
(セグメント情報等)	P. 8
3. その他	P. 10
継続企業の前提に関する重要事象等	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年12月31日）における日本経済は、株高に下支えされた企業収益や雇用・所得環境の改善が見受けられたものの、海外の地政学的リスクは引き続き高く、先行きが不透明な状況での推移となりました。

このような環境の下、当社グループは平成28年5月16日に発表した中期経営計画に従い、M&A等を活用した新しい分野へのチャレンジを積極的に推進しており、当第3四半期連結累計期間においては、次のとおりの成果が得られております。

平成29年10月：株式会社光通信と各種製品・サービスの媒介販売を目的とした合弁会社（株式会社ソフトフロントマーケティング）が事業を開始。営業力・販売力を強化。

平成29年11月：株式会社ワールドスケープの株式を追加取得し、提携関係を深化。

なお、平成29年12月27日付の「子会社（株式会社グッドスタイルカンパニー）の株式の一部譲渡に関するお知らせ」で開示をいたしましたとおり、当第3四半期より株式会社グッドスタイルカンパニーが当社グループから外れております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,088,818千円（前年同四半期比0.4%増）、営業損失662,283千円（前年同四半期は営業損失242,506千円）、経常損失606,163千円（前年同四半期は経常損失237,484千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失843,767千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失275,271千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①コミュニケーションソフトウェア関連事業

売上高は194,900千円（前年同四半期比3.7%減）、セグメント損失182,976千円（前年同四半期はセグメント損失314,204千円）となりました。これは主に製品保守案件の獲得やロイヤリティ収入は前年同様に堅調であったものの、一部の開発案件が進行中であることや新規大型案件の契約締結に遅れが生じたことにより、損失を計上しております。

②グッドスタイルカンパニー関連事業

当3四半期に株式会社グッドスタイルカンパニーが当社グループから外れたため、売上高が799,864千円、セグメント損失が144,851千円となりました。

③筆まめ関連事業

第1四半期に株式会社筆まめが当社グループから外れたため、売上高が14,799千円（前年同四半期比98.3%減）、セグメント損失が30,556千円（前年同四半期はセグメント利益148,492千円）で第1四半期連結累計期間から変更はありません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は419,427千円となり、前連結会計年度末に比べ1,504,767千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が837,830千円、売掛金が696,325千円減少したことによるものであります。固定資産は596,778千円となり、前連結会計年度末に比べ1,745,849千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が302,058千円、無形固定資産ののれんが1,325,393千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は338,980千円となり、前連結会計年度末に比べ1,409,775千円減少いたしました。これは主に、短期借入金が287,087千円、1年内返済予定の長期借入金が291,263千円、前受金が562,031千円減少したことによるものであります。固定負債は12,240千円となり、前連結会計年度末に比べ1,211,336千円減少いたしました。これは主に、長期借入金が672,047千円、長期前受金が371,046千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は664,984千円となり、前連結会計年度末に比べ629,505千円減少いたしました。これは主に、連結除外に伴う利益剰余金の増加額211,218千円を計上したものの、親会社株主に帰属する四半期純損失843,767千円を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は64.4%（前連結会計年度末は30.0%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は現在、中期経営計画に基づき、M&Aを積極的に進めているため、当社の業績はM&Aの成否及び実施時期によって大きく変動いたします。このため、現時点では業績に与える未確定な要素が多いため、業績予想を数値で示すことが困難な状況です。連結業績予想については、合理的に予測可能となった時点で公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,036,105	198,274
売掛金	787,989	91,663
その他	160,663	130,921
貸倒引当金	△60,561	△1,431
流動資産合計	1,924,195	419,427
固定資産		
有形固定資産	302,058	0
無形固定資産		
ソフトウェア	186,299	34,315
のれん	1,533,573	208,180
その他	42	-
無形固定資産合計	1,719,915	242,496
投資その他の資産		
投資有価証券	33,270	285,309
その他	457,868	89,872
貸倒引当金	△160,365	△20,900
投資損失引当金	△10,120	-
投資その他の資産合計	320,653	354,282
固定資産合計	2,342,627	596,778
資産合計	4,266,823	1,016,206
負債の部		
流動負債		
営業未払金	78,171	25,703
短期借入金	490,417	203,330
1年内償還予定の社債	20,000	-
1年内返済予定の長期借入金	299,731	8,468
未払法人税等	31,444	14,308
前受金	574,180	12,149
移転損失引当金	2,922	-
その他の引当金	30,506	2,760
その他	221,383	72,261
流動負債合計	1,748,755	338,980
固定負債		
社債	60,000	-
長期借入金	680,382	8,335
長期前受金	371,046	-
資産除去債務	73,819	-
その他	38,328	3,905
固定負債合計	1,223,576	12,240
負債合計	2,972,332	351,221
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,989,366	3,989,366
資本剰余金	3,849,344	3,849,344
利益剰余金	△6,562,181	△7,194,731
自己株式	△64	△64
株主資本合計	1,276,465	643,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,221	8,846
為替換算調整勘定	817	1,605
その他の包括利益累計額合計	2,038	10,452
新株予約権	0	0
非支配株主持分	15,986	10,617
純資産合計	1,294,490	664,984
負債純資産合計	4,266,823	1,016,206

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	1,084,432	1,088,818
売上原価	467,737	763,445
売上総利益	616,695	325,372
販売費及び一般管理費	859,202	987,656
営業損失(△)	△242,506	△662,283
営業外収益		
受取利息	136	190
受取配当金	61	683
受取手数料	-	61,694
雑収入	10,332	8,143
営業外収益合計	10,530	70,710
営業外費用		
支払利息	2,906	11,205
株式交付費	2,068	-
貸倒引当金繰入額	-	2,606
その他	532	778
営業外費用合計	5,507	14,590
経常損失(△)	△237,484	△606,163
特別利益		
段階取得に係る差益	35,000	-
子会社株式売却益	-	61,877
投資有価証券売却益	-	4,944
特別利益合計	35,000	66,821
特別損失		
投資有価証券評価損	-	166,912
減損損失	55,295	128,519
移転損失引当金繰入額	2,922	-
特別損失合計	58,218	295,431
税金等調整前四半期純損失(△)	△260,702	△834,772
法人税、住民税及び事業税	14,131	3,604
法人税等調整額	4,072	14,225
法人税等合計	18,204	17,829
四半期純損失(△)	△278,906	△852,601
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,635	△8,834
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△275,271	△843,767

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純損失(△)	△278,906	△852,601
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,504	7,625
為替換算調整勘定	2,915	787
その他の包括利益合計	4,419	8,413
四半期包括利益	△274,487	△844,188
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△270,851	△835,354
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,635	△8,834

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失672,846千円、経常損失673,152千円、親会社株主に帰属する当期純損失665,966千円を計上し、6期連続の営業損失を計上いたしました。当第3四半期連結累計期間においても、営業損失662,283千円、経常損失606,163千円、親会社株主に帰属する四半期純損失843,767千円を計上しており、このような損失計上が継続すれば今後の手元流動性の確保に支障が生じる可能性もあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消して早期黒字化を図ることが優先課題であり、中期経営計画に基づき、以下に示す3つのテーマに係る施策を積極的に推進し、当社グループにおける業績回復を進めて参ります。

①新たな市場への挑戦

『コミュニケーションプラットフォーム事業』及び『ネットとリアル融合事業』を展開し、新しい市場に挑戦します。新サービスの提供により、大手通信事業者などの既存顧客のみならず、『ネットサービス事業者』やネットの活用・展開が未だ不十分な『リアルな事業者』等を取り込み、顧客層を拡張することでビジネスのチャンスを広げます。

②スピーディなニーズ対応

M&A等により強化したグループ内外のリソースや市場を柔軟に組み合わせることで、迅速にサービスを創出・提供いたします。

当連結会計年度は、特に各事業会社の既に対象としている市場を共有することで、新たな顧客のニーズを発掘し、併せて、グループ内の既存リソースを融合することで、素早く価値を提供する活動に注力します。

③環境適応力の強化

早期に収益を確保するため、M&Aを基軸に、事業基盤の強化に取り組みます。スピーディな事業展開ができるようにグループ経営体制を整え、各子会社は個々の強みに特化した事業展開に専念するとともに、持株会社が『戦略策定』・『資源配分』等、全体的な視点から、グループをコントロールすることで、柔軟に環境に適応できる経営を目指します。

当社グループは、平成29年12月28日に連結子会社である株式会社グッドスタイルカンパニーの株式の一部を株式会社美光に譲渡しており、その譲渡により得られた資金を上記の施策に再投資して参ります。また、資金調達を含む施策により、手元流動性の確保に努めます。

上記の施策を実施することにより、収益基盤を確保し経営の安定化を図り、当該状況が解消されると判断しておりますが、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であった株式会社筆まめの株式を全て売却したことにより、株式会社筆まめは当社の特定子会社に該当しないこととなり、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間において、当社の子会社であった株式会社グッドスタイルカンパニーの株式を一部売却したことにより、株式会社グッドスタイルカンパニーは当社の子会社に該当しないこととなり、当第3四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コミュニケ ーションソ フトウェア 関連事業	グッドスタ イルカンパ ニー関連事 業	筆まめ関連 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上 高	190,847	-	891,269	1,082,117	2,315	1,084,432	-	1,084,432
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	11,452	-	2,500	13,952	-	13,952	△13,952	-
計	202,300	-	893,769	1,096,070	2,315	1,098,385	△13,952	1,084,432
セグメント利益又 は損失(△)	△314,204	-	148,492	△165,712	△11,176	△176,888	△65,618	△242,506

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外進出支援事業などを含んでおります。
 2. セグメント損失(△)の調整額△65,618千円には、セグメント間取引消去29,455千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△95,074千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、デジタルポスト株式会社及び株式会社筆まめの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「コミュニケーションソフトウェア関連事業」のセグメント資産が58,126千円、「筆まめ関連事業」のセグメント資産が1,710,050千円増加しております。

第2四半期連結会計期間において、株式会社AWESOME JAPANの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「その他」のセグメント資産が223,230千円増加しております。

当第3四半期連結会計期間において、有限会社グッドスタイルカンパニー(現株式会社グッドスタイルカンパニー)の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「グッドスタイルカンパニー関連事業」のセグメント資産が2,311,938千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間に、コミュニケーションソフトウェア関連事業セグメントにおいて、53,652千円、各報告セグメントに帰属しない全社資産において1,643千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

筆まめ関連事業セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に株式会社筆まめの株式を取得し連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間において617,077千円であります。

その他セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間に株式会社AWESOME JAPANの株式を取得し連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間において207,176千円であります。

グッドスタイルカンパニー関連事業セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間に有限会社グッドスタイルカンパニー(現株式会社グッドスタイルカンパニー)の株式を取得し連結子会社としました。当該事象によるのれんの増加額は当第3四半期連結累計期間において691,615千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コミュニケ ーションソ フトウェア 関連事業	グッドスタ イルカンパ ニー関連事 業	筆まめ関連 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	194,382	799,864	14,799	1,009,046	79,771	1,088,818	-	1,088,818
セグメント間の内部売上高又は振替高	517	-	-	517	149	667	△667	-
計	194,900	799,864	14,799	1,009,564	79,921	1,089,485	△667	1,088,818
セグメント損失 (△)	△182,976	△144,851	△30,556	△358,385	△72,614	△430,999	△231,283	△662,283

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外進出支援事業などを含んでおります。
 2. セグメント損失(△)の調整額△231,283千円には、セグメント間取引消去△456千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△230,827千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の売却による資産の著しい減少)

第1四半期連結会計期間において、株式会社筆まめの株式を売却し、連結の範囲から除外したことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「筆まめ関連事業」のセグメント資産が1,599,741千円減少しております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社グッドスタイルカンパニーの株式の一部を売却し、連結の範囲から除外したことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「グッドスタイルカンパニー関連事業」のセグメント資産が2,227,947千円減少しております。

(報告セグメントに帰属しない共通資産の区分方法の変更に伴う資産の著しい減少)

第1四半期連結会計期間より報告セグメントに帰属しない共通資産を全社資産として区分する方法に変更しております。これは持株会社の組織規模拡大に伴い各セグメントの業績を明確にすることを目的としたものであります。

このため、前連結会計年度の末日に比べ、「コミュニケーションソフトウェア関連事業」のセグメント資産が423,705千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「グッドスタイルカンパニー関連事業」セグメントにおいて閉鎖が予定されている店舗が存在したため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において10,511千円であります。

各報告セグメントに帰属しない全社資産において、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において118,007千円です。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、持株会社である当社の費用を一定の基準に基づき各セグメントへ配賦しておりましたが、第1四半期連結会計期間より報告セグメントに帰属しない共通費用を全社費用として「調整額」に区分する方法に変更しております。これは持株会社の組織規模拡大に伴い各セグメントの業績を明確にすることを目的としたものであります。

なお、前第3四半期連結累計期間においては、持株会社体制への移行前について全社費用の発生額を算定できないため、影響額を算定することは困難であります。

当第3四半期連結累計期間においては、従来の算定方法を適用した場合に比べ、セグメント損失が「コミュニケーションソフトウェア関連事業」で169,593千円減少しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失672,846千円、経常損失673,152千円、親会社株主に帰属する当期純損失665,966千円を計上し、6期連続の営業損失を計上いたしました。当第3四半期連結累計期間においても、営業損失662,283千円、経常損失606,163千円、親会社株主に帰属する四半期純損失843,767千円を計上しており、このような損失計上が継続すれば今後の手元流動性の確保に支障が生じる可能性もあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消し、早期黒字化を図ることが優先課題であると認識しております。そのための施策として①新たな市場への挑戦、②スピーディなニーズ対応、③環境適応力の強化を積極的に推進し、当社グループにおける業績回復を進めて参ります。

なお、当社グループの施策の詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(継続企業の前提に関する注記)」に記載しております。